

天守台石垣の爆撃被害跡

日本が第二次世界大戦で無条件降伏する前日の 1945 年 8 月 14 日に、米国は大阪への最後となる空爆を実施した。軍需工場に囲まれた軍事施設であった大阪城は主要な標的となった。この日、1 トンもの爆弾が天守閣脇の北東側で爆発した。石垣は傾いたが、幸運にも建物本体は持ちこたえた。1931 年の再建時に内部基礎部分は鉄筋コンクリートで補強されたため、損傷を受けた石垣が天守閣の上部構造に危険をもたらすことは無い。